

九州北東の端にあり両子山の火山錐から形成された国東半島は一時期には日本の政治的大権力を持つ地域であった。8 世紀には伝説の僧仁聞が六郷満山として知られる苦行をうみだした。この行は仏教と神道崇拝を組み合わせたものである。そして半島の山々に隠れた 28 の神聖な洞窟へ 1 年をかけた巡礼を行っている。行が宗教の伝統により組み込まれるようになるにつれて、弥勒寺・宇佐神宮施設にある寺と神社は僧たちに、神社・寺で仕えることができるまでに六郷満山を終えることを要求した。六郷満山の小径に沿って助手達はさらに神社・寺を建立し、神々をより崇拝できるようにした。この宗教体系がその地方の政治権力を握っていたが、やがて武士の領主にとって代われ、領主達は代わりに今日半島に散在する。城下町を築いた。融合された仏教と神道崇拝は、仏教の寺と神道の神社は新しい政府によって分離することを余儀なくされた 1867 年の明治維新後もしばらく続いた。